

NOW IS.

宮城は現在も
いま
現実に
立ち向かう。

2019.1.11

Vol.
33
January, 2019

ナウイズ
毎月11日発行



パンダライオン
in 岩沼・亘理

この地が誇り。
ここから全国へ！



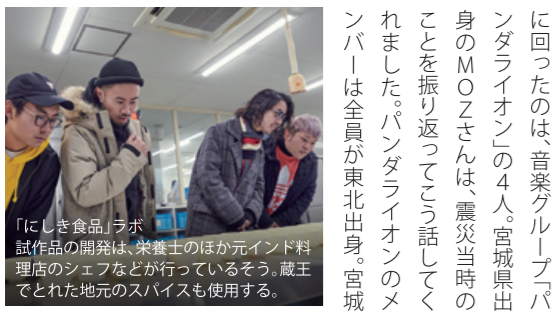
全国に広がる
岩沼発レトルトカレー。

「東日本大震災が起きたのは、自分がまだ売れないラップグループをやっていた時。もう音楽なんていつできるか分からないなあ...と思いつつながらガソリンの列に並んでいた時、ラジオからアンパンマンの歌が流れてきたんです。グサグサ心に刺さって、涙が止まらなかった。あの時、ああ人の心に刺さる音楽がやりたいなと思ったんです。」
今回 岩沼市と亘理町を一緒



「にしきや」売店
「誠意させてもらったレモンカレーが最高においしかった」とMOZさん。

パンダライオンとめぐる
岩沼・亘理、食の旅。
やっぱり宮城ってすごい！



「にしき食品」ラボ
試作品の開発は、栄養士のほか元インド料理店のシェフなどが行っているそう。蔵王でとれた地元のスパイスも使用する。

に回ったのは、音楽グループ「パンダライオン」の4人。宮城県出身のMOZさんは、震災当時のことを振り返ってこう話してくれました。パンダライオンのメンバーは全員が東北出身。宮城県を拠点に、思いがこもった音楽を発信し続けています。
この日まず訪れたのは、岩沼市の「にしき食品」。こだわりのレトルトカレー専門メーカーとして、今全国から注目を集めている会社です。「三度の飯よりカレーが好きなんです」「おれもだよ！」とはしゃぐMOZさんとKIMさん。カレーの香りが漂う工場を広報の齋藤幸治さんが案内してくれました。
「レトルトって実はいいものなんだ！ということを発信したい。うちのカレーは、添加物不使用です。味も本物にこだわっていて、プライベートブランドのインドカレーをつくるために、毎年インドに行っています。ラボでは、新しいカレーを開発するために、約30種のスパイスが並べられていました。メンバーの59さんは「こんなに使うんですか！こたわってますね」と目を丸くします。にしき食品のレトルトカレーは、スーパーでよく目にするレトルト食品より値段が高めです。それでも、おいしくて安全な料理を手軽に食べたいという時代のニーズにマッチし、売り上げを伸ばしています。
「震災で、工場は約1メートル浸水しました。けれど、当時の社長の早い判断で震災の翌週には工場再開に向けて動き始めることができました。少し遅かったら、資材不足で工場を再建するのにもっと時間がかかったでしょう。」

う。震災後には工場の増設もしましたし、2020年には、見学ができる工場も完成する予定です」と齋藤さん。KIMさんは「このたくましさがあるからこそ、宮城で生まれたカレーが日本全国に羽ばたいたんですねと感心した様子。最後に立ち寄ったプライベートブランド「にしきや」の売店では、4人も我先にとカレーを購入していました。



亘理町の海の幸が1年中楽しめる人気メニューの「五季飯」。12月19日からは「ほっきめし」が味わえます。

はらこめしへの誇りが
現地再建の原動力に。
次に訪れたのは、亘理町の「あら浜」。鮭とイクラを使った郷土料理「はらこめし」で有名なこの店は、津波で店舗が流失しました。「ほんとは逃げる気なかったんだよ、店は命だから」と店主の塚部久芳さん。避難先の学校で数日過ごし、店があった場所に帰った時目に入ったのは、瓦礫に覆われたまち。そこに「あら浜」の看板がぼつんと残っていました。「ここに戻れということなんだな」と、震災後はショックでもうろうろとしていたんだけど、息子の協力もあって震災の

半年後に仙台市内に看板を出せました。そしたら、すごい行列になったんだよ。涙が出ました。」話の迫力にのめられたように聞き入る4人。「あら浜」は震災から5年5カ月後に亘理で再建しました。その年のはらこめしのシーズンは、「あら浜」を目指すお客さんの車で渋滞が起きるほどだったと言います。「先人が磨き上げたはらこめしを、売り続けないといけない。今も、その一心です。」
塚部さんの話を聞き、59さんがかみしめるように言いました。「ほくらも、ほくらなりのはらこめしを、発信していかないといけないですね。ほくらは塚部さんから、はらこめしにかけられるプライドを感じました。はらこめしが、被災地である亘理に人々を呼ぶフックになっている。はらこめしを発信することが、震災を風化させないことにつながってるんです。AIBAさんもうなづきます。「にしき食品でも、あら浜でも、気持ちと行動力が復興につながってるんだと感じました。そういう行動力を見習いたいですね。」



塚部さん親子と一緒に。
新しい店を支えたのは家族の協力だった。



「あら浜」にて
海鮮丼や天ぷらも盛りがいい。1月からは、ホッキ飯がおいしいシーズン。

PROFILE
パンダライオン
ぱんだらいおん
仙台を拠点に活動するグループ。左から青森県出身のKIM(キム)、59(ゴクウ)、宮城県出身のAIBA(アイバ)、MOZ(モズ)からなる。2018年は、DA PUMPの「U.S.A」をアレンジした栗原市のご当地ソング「N.K」が再生回数260万回を突破した。2019年2月9日、10日に結成5周年記念のワンマンライブを行う。

沼田佐和子
「震災のあと、自分が生きている一日は、誰かが生きたかった一日なんだと身に染みて感じました」とMOZさんは言います。「自分は宮城の空気と郷土に誇りを持っている。今日出会った人たちが、この場所じゃないと、という想いをすごく感じました。これからも、東北出身だという誇りを持って、ここから発信し続けたいですね。」

岩沼亘理 DAY OUT

IWANUMA & WATARI

岩沼亘理で
休日を



岩沼市は、復興を象徴するメモリアル公園「千年希望の丘」があり、震災の記憶を伝承しています。竹駒神社や金蛇水神社という歴史あるパワースポットも。亘理町は、東北一のいちご産地であるほか、「わたり温泉鳥の海」では絶景が望める癒しの露天風呂が楽しめます。

にしき食品

津波で被災しながらも、震災から45日で事業を再開した産業復興の先進的会社。カレーやパスタソースなどの業務用ソースのほか、本格的なインドカレーや7大アレルギー不使用商品、ハラールシリーズなどを自社ブランドで製造。レトルト食品の新しい価値をつくり続けています。工場併設のお店でお土産をGETしてみませんか？

いわぬまひつじ村

東日本大震災で被災した土地を活用して、放牧されているヒツジを自由に見学できるスポット。敷地内には牧場のほかドッグラン、広場にあるゲルの中に展示スペースがあり、毎月第3日曜日は「ひつじ村の市」を開催。毎週土日はえさやり体験(100円)も行われています。

旬魚・鮭の店 あら浜 亘理店

亘理町の食材に誇りを持ち、旬の食材を提供。名物のはらこめしをはじめ、ほっきめしやしゃこめしなど、四季折々の旬を堪能できる「五季飯」が人気です。宮城県産のササニシキ、亘理町で300年以上の歴史を持つ永田醸造の大吟醸醤油を使うなど、こだわり抜いた料理が楽しめます。

鳥の海ふれあい市場

津波被害で一時的に営業を休止し、仮設店舗を経て2014年10月に移転オープン。荒浜漁港で水揚げされた鮮魚や地元野菜、工芸品など、亘理町ならではの商品がそろっています。季節限定でははらこめしやほっきめしも提供。観光拠点として観光復興につながっています。

吉田浜海岸

日本最大級の鳴り砂海岸。砂の上を歩くと「キューッキュッ」となります。

岩沼みんなの家
復興支援継続の活動拠点。併設の「みんなのカフェ」では、岩沼産の食材を使用したスイーツやドリンクが楽しめます。

津波に耐えた大銀杏
樹齢300年以上と伝わる長谷釜神明社の銀杏は、震災による大津波にもしっかりと根をはって耐え抜いた奇跡の大銀杏です。

悠里館
1階に郷土資料館、2階が図書館で、亘理町の文化発信基地です。5階の展望ホールでは町内が一望できます。

取材
こぼれ話
VOICE
FROM
STAFF

にしき食品の こだわり

にしき食品のインド料理は、さまざまなスパイスとハーブが合わさり、香り豊かで味わい深いです！味の要となるハーブ「カレーリーフ」は、なんと宮城県産。蔵王の農家さんが、ゼロから試行錯誤を繰り返し、安定供給できるようになったそうです。通常なら乾燥したものを輸入しますが、生(フレッシュ)だと香りがまったく違うんだとか。非常用の備蓄にと買ったスタッフですが、おいしくて全部食べてしまいました(笑)



Support Power

PROFILE

亘理町 企画財政課 企画班
小山 祐史 さん
愛知県岡崎市より亘理町に派遣

the 応援職員

NOW IS.

岩沼・亘理

Iwanuma-Watari



わたり温泉鳥の海からの鳥の海湾の景色。奥には美しい蔵王連峰が望める。



亘理発祥の「はらこめし」。全国の人に知ってほしい郷土の味。



亘理町の魅力を全国の人に知ってほしい

「物産展で『はらこめし』のPRをした時、多くの方に『おいしい』『言ってもうると、自分ごとのようにうれしくなるんです』と笑顔で話す小山さんは、愛知県岡崎市出身。入庁した時から復興の手助けをしたいと思っていました。市のサッカー部に所属し、亘理町役場サッカー部との交流があり、より想いは強まりました。そして願いが叶い、2018年4月から亘理町に派遣され、企画財政課に所属しています。

企画財政課では、亘理町の地方創生事業や広報わたりの制作などの業務を担当しています。地方創生事業では、特に郷土料理「はらこめし」を全国にPRしようと、昨年度から「もっとはらこめし」プロジェクトを推進しています。物産展などのイベント出店やパブリシティ強化、町内のスタンプラリー企画のほか、「はらこめし教室」を開き、町内でも魅力を再認識してもらい、地産地消の推進も図っています。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

東日本大震災 岩沼市追悼イベント(仮称)

震災の記憶を永遠に語り継ぎ、犠牲者へ祈りを届けるため、岩沼市相野釜公園に灯籠で明かりを灯します。
日時:2019年3月10日(日) 17:30~20:00(予定)
●場所:千年希望の丘相野釜公園 ※天候により中止となる場合があります。
☎0223-22-1111(岩沼市総務課)



みずみずしい「いちご」を ぜひ味わってみて!

東北一の生産量を誇る「わたりのいちご」。町内2カ所の観光いちご園で、いちご狩りが2019年1月13日からスタートします。たわわに実った真っ赤ないちごをぜひ食べてください。
●JAみやぎ亘理吉田観光いちご園
☎電話0223-34-9471
●いちごランドこうちゃん園
☎電話0223-34-4571
※詳細は「亘理町観光協会」HPでご覧いただけます。
<http://www.datenawatari.jp/publics/index/78/>

今月の ガイド

MONTHLY
GUIDE

旬魚・鮭の店 あら浜 店主

塚部 久芳 さん

「生かされてもらった分、何をすべきか。そう話すのは亘理町で長年愛されている旬魚鮭の店「あら浜」の店主、塚部さんです。かつて漁師だった塚部さんは25年前、亘理町に店を構えました。津波で店を流しますが、震災からわずか半年後の2011年10月には、仙台で新たな店をオープンします。いつか亘理町に帰るといふ気持ちを持ち続け、震災から5年5カ月ぶりに亘理町で店を再建しました。現在、仙台のお店は一男の慶人さんが切り盛りしています。『先人たちが築き上げてきたはらこめしを含め、亘理町の魅力を伝える発信地になれば、亘理に賑わいを取り戻したいです』と話してくれました。

支援の継続と資金調達。 50年後の「森」を見据え、 世代交代できるシステムを。

長く続けるために
乗り越えるべき課題

わたりグリーンベルトプロジェクトの前身である団体が海岸林復活の取り組みを始めたのは、2011年後半のことでした。当時沿岸部はまだ植樹ができる状況ではありませんでしたが、有志が集まり、苗木づくりからスタートしました。

次の年、住民を集めて沿岸部の未来の構想図をつくるワークショップが開催されます。針葉樹とともに広葉樹も植えられた「森」を中心に、公園やビジターセンター、宿泊施設などに人が集まり、空にはイチゴの気球が浮かんでいる。わたりグリーンベルトプロジェクトは、今でもこの時の基本構想図を目指し、活動を続けています。

嘉藤さんがこのプロジェクトに最初に参加したのも、このワークショップでした。「海沿いには松があるっていう、わたしたちにとって当たり前



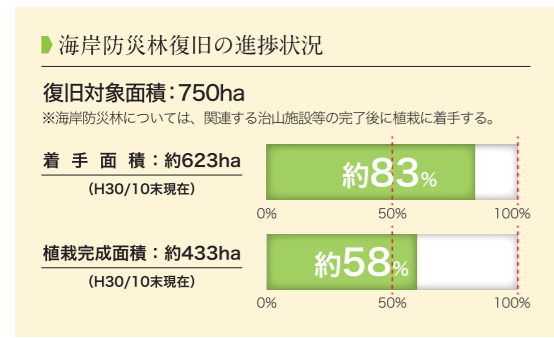
(上) 苗木づくりの活動を広げようと、苗木の「里親」制度もスタート。2年間自宅で育て、3年目に植樹に来てもらう。
(左) 植樹以外にコミュニティづくりの取り組みも。別の支援団体から取り組みを引き継いだ「地域菜園 おらほの畑」には、復興住宅などに入居した高齢者が集まる。
(右) 嘉藤さんいわく「飯のタネ」候補の落花生。千葉市の生産者の協力を得て、栽培を始めた。

だった景色を再生したいと思いました。最初はお手伝いだけのつもりだったんですよ。でもそのうち、周りの人がいろんな事情で続けられなくなってくる。でも、この取り組みはなくしちゃいけないと思って。それで今もどうにか続けています」。

沿岸部の整備が終わり、2015年から植樹が始まりました。今後、2020年ごろまで段階的に進めていく予定です。「植える松は、残った松林の松ぼっくりから種をとったもの。専門家のアドバイスを聞きながら進めていますが、やはりいつも手探りです。土も生育に適したものでないので、いろいろやってみながら植え続けるつもりです」。苗木づくりや植樹には、地域の小・中学校のほか、企業のボランティアツアーも訪れます。「ツアーで参加する人は2015年をピークに減少しています。これからますます人手がいるところなんだけどもね」。木が成長すれば、草刈りなどの維持管理も必要になってきます。「自分が植えた木がどうなっ

ているか、見に来なくなるシステムをつくりたいですね」と嘉藤さん。ステンレス製の名札をつくるなど、参加してくれた人のモチベーションにつながるような取り組みを模索しています。

7年続いたプロジェクトですが、今直面しているのが、活動資金の問題です。「団体を続けていくためには、従業員に平均的な給料を出せるようにならないといけない。復興予算が減り、助成金にも頼れない状況になっています。「飯のタネ」を自分たちでつくらないと」。そこで嘉藤さんが着目したのが「休耕地」でした。「震災で辞めてしまった畑がこのあたりにたくさんある。ここを使えないかなって」。取り組みを通じてつながった人たちの支援で、2018年は落花生の栽培を始めました。「森が育つまで30年。長い時間がかかるから世代交代しないといけない。若い人にとっても魅力ある団体になって50年後、100年後につないでいきたいですね」。



PROFILE

わたりグリーンベルトプロジェクト

かとう かずお
嘉藤 一夫さん

わたりグリーンベルトプロジェクト代表理事。盛岡市出身。結婚後、妻の実家である亘理町に居を構えた。電子機器の会社を定年後、東日本大震災で被災。自宅は約2メートルの津波に襲われたが、現地再建した。

NOW IS. **33** 年

発行：2019年1月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493
「復興情報発信プロジェクト NOW IS」は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

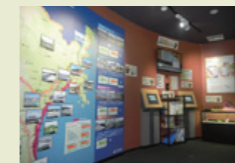
宮城県
Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

01 宮城県の復興の様子を見てみませんか？

宮城県庁18階にある「東日本大震災復興情報コーナー」では、パネルや記録映像などで震災復興に関する様々な情報を紹介しています。また、クイズに答えながら防災・減災について学べる防災クイズコーナーも設置しています。お近くにおいでの際は、ぜひお立ち寄りください。



【ご利用について】
場所：宮城県庁18階県政広報展示室
開館時間：月～金曜日 9:30～16:00 まで
※休館日：土・日曜・祝日・年末年始(閉庁日)

☎県震災復興推進課
☎022-211-2408

02 移住・定住イベント開催！！

●第6回みやぎ移住フェア
～みやぎ移住スタイル 地方都市と森・海・里が織りなす多様な暮らし～

「仕事は仙台・生活は自然豊かな地域」「暮らしは地域・趣味や遊びは仙台」など、地方都市である仙台市と自分に合った距離感で暮らす、「みやぎ移住スタイル」をゲストのお話も交えながら、みなさんと一緒に考える移住イベントを開催します。宮城県出身の方はもちろん、宮城県に興味・関心のある方はぜひお越しください！

日時：平成31年1月19日(土) 17:30～20:00
場所：ふるさと帰郷支援センターセミナールーム

(東京都千代田区有楽町2-10-1東京交通会館8階)
参加自治体：角田市・東松島市・蔵王町・七ヶ宿町・松島町・大和町・大郷町・南三陸町
トークゲスト：藤田 岳さん
(移住先である南三陸町で、古民家で暮らしながら地域農業の活性化等に努めている。)

☎みやぎ移住サポートセンター
☎090-1559-4714

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイト
みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから！
<http://www.fukkomiyaagi.jp>

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで！

今月のブログピックアップ

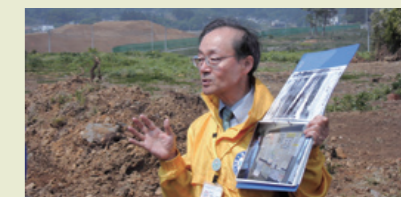


いわたかれん
復興フォト
岩田 華伶



これまでの被災地訪問は90回を超える岩田さん。「写真」に想いを込めて、被災地の状況を発信しています。今回訪れたのは「塩竈市」。浦戸の花物語プロジェクトの拠点でもあるカフェ「花薫る喫茶処 蕾」をご紹介します。

語り部が
本当に
語りたこと



一般社団法人気仙沼観光コンベンション協会、震災復興語り部部会の橋本茂善さんより寄稿いただきました。被災地の生の声を届けたいと、気仙沼市と協会で組織を立ち上げ、40数名で語り部を始めた橋本さん。これからの想いを語ってくださいました。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信！復興みやぎ SNS「いまを発信！復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS.メールマガジン NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 **NOW IS.メールマガジン** で検索して登録！

宮城の
「今」を発信



震災の伝承や
防災・減災に取り組む
活動をご紹介します。

「サバ・メシ防災ハンドブック」 防災・減災に役立つ情報を発信

災害時に簡単に作れる非常食「サバイバル・メシ」略して「サバ・メシ」。おいしく、楽しく、アイデアと工夫を凝らした非常食を考えることで、より身近に、より積極的に防災に取り組む意識を高めることができます。「サバ・メシ防災ハンドブック」は、東日本大震災を機に2011年に発刊。2014年以降は毎年発刊しています。サバ・メシレシピの紹介をはじめ、様々な防災・減災情報を盛り込んでいます。ハンドブックの内容はエフエム仙台のHPで閲覧可能です。



2019.1.11

Vol.
33
January, 2019

ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在も
いま
現実に
立ち向かう。

NOW IS.



皆が集う「森」を 未来に残すために。

「この苗木が、元の海岸林の大きさに育つまで30年かかる。その時自分は100歳。だから最近、悪い人になろうと努力してるの。憎まれっ子世に憚るっていうでしょう。やっぱりこの目で見たいからね」。

東日本大震災の前、亶理町の沿岸部は120ヘクタールの海岸林で覆われていました。クロマツを中心に、コナラやヤマザクラなどが茂る海岸林は、太平洋からの強い潮風から

農地を守るとともに、亶理町に住む人々に恵みを与える場でもありました。「この辺の集落の人は、海岸林に行くことを『ヤマさ行く』と言っていました。秋になるとキノコを採りに行きました」。まるで里山ような場所だったクロマツの森。そんな「おらほ(私たち)の森」を再生させようと取り組みを続けているのが、NPO法人わたりグリーンベルトプロジェクトです。

嘉藤 一夫
わたりグリーンベルト
プロジェクト